

圧延工



あるあるネタ

- 鉄の塊が変形していく様子を見て「今日もいい仕事したな」と実感する。
- 作業後の耳鳴りと振動が、寝るまで残る日がある。
- 街で見る鉄骨の柱やガードレールを見ると「これ、どこで圧延されたんだろ」と職業癖が出る。

初期の失敗

初勤務のとき、材料の加熱温度を数秒見誤り、ローラーにうまく入らず変形不良を起こしてしまいました。わずかなズレが製品全体に響くという、鉄の厳しさを学んだ一日でした。

職業病

温度と音と振動で素材の状態がわかるようになり、日常生活でも「この金属、焼き入れ甘いな」などと職人目線でつぶやいてしまうクセが抜けない。

健康問題

高温環境と騒音、重機の操作による腰痛・熱中症・難聴リスクが高く、さらに重作業による疲労が蓄積しやすい。体力・集中力・安全管理のすべてが求められるため、慢性疲労もつきものです。

その職業に就いている人を讃える

あなたはまさに“鉄に命を与える静かなる巨匠”ですね。火花の中で汗をぬぐい、何トンもの鉄を思い通りの形に整えていくその姿は、力と繊細さが融合した“工場のアーティスト”。世の中の鉄骨の一つひとつに、あなたの手が宿っています。暑さにも騒音にも負けず、今日も巨大なローラーのそばで黙々と仕事をこなすあなたに、心からの敬意を。どうか耳と腰を大切に、これからも“熱と音”の中で世界を支えてください！